

ひかりのこ

年度末園便り

聖ミカエル幼稚園
2019年3月15日

「子育て」

年長さんの保護者の皆様、お子様のご卒園、おめでとうございます。年中、少の保護者の皆様、お子様のご進級、おめでとうございます。

ここまでよく子どもたちは育ってくれました。そして、保護者の皆様は、ここまでよく立派にお育てになりました。

お子さんが生まれた日のことを、思い出してみましょう。予定日より早くて気持ちばかりが焦ったお母さん、いつまでたっても生まれなくても、不安になったお母さん、生まれたその日からのお子さん事情が違って生まれてきます。あのおなかの痛み、不安な気持ち、そして生れ出てくれた時の何とも言えない達成感、喜び。ほんの4～6年前にお母さんは、そんな気持ちを味わいました。待っていてくれたお父さん、おじいちゃんおばあちゃん、親せきの皆さん。小さな小さな命が、みんなの思いに包まれてこの世に誕生したのです。

寝返りを打った日、お座りをした日、赤ちゃんの泣き声とは違う何やら言葉にならない言葉を発した日、スプーンから重湯をパクンと食べた日、一つ一つどれも記念日だったことでしょう。自分の足で、つかまり立ちをした日、歩き始めた日、たった1～2年の間で、子どもたちは何度も周りの大人たちを喜ばせ、ワクワクする気持ちにさせてくれたことでしょう。

子育てって、日常生活そのものですが、子どもは日常の普通の生活の中で、私たち大人を揺り動かす、喜びを与え続けます。「いやだいやだ」が始まってそれは成長のあかし。たくさん泣く子どもそれなりの理由があって、成長のあかし。子どもの成長を日常の中で見続けられる子育ての時期は、大変だけれど、やっぱりうらやましい時期です。3人の子どもを育てた私でも、やっぱりうらやましくて、あの感覚をまた味わいたいなあ、と思います。

そして子どもたちは幼稚園に入園して、「家族以外の人とかかわる楽しさ」を発見しました。お友達となら、今までできなかったことも、できちゃう。嫌いだったお野菜も食べられちゃう、お友達の真似をしていたら体もたくさん動かせるようになりました。お話も上手になりました。お友達に、「どうぞ」と譲ることもできるようになりました。この1～4年間の幼稚園生活で、子どもたちのびっくりするような成長を、保護者の皆様は、私たち保育者と共に楽しまれてきたことでしょう。

そして、これからも子どもたちは、子どもたちの内なる力によって成長していきます。私たち大人は、それを楽しみにして、日々を過ごしましょう。

園長 渡部良子

キリスト教保育

「目から鱗^{うろこ}」

キリスト教を世界に伝えた立役者にパウロという人がいます。しかし、最初からイエス様を信じていたのではなく、実は反対にキリスト教徒を迫害していた人でした。そのパウロが旅の途中、突然イエス様の声が天から聞こえ、目が見えなくなってしまいました。介抱される中で、「目から鱗のようなものが落ち」、パウロは自分の誤りに気づき、今度はイエス様のために働くようになるのです。日本でも「目から鱗」といいますが、それはこの逸話から来ているようです。

新しいものを見つけたり、「ああ、そうだったのか」と気づかされることはよくあります。でも、「目から鱗」というのは、もっと劇的で、自分の根本がぐらぐら揺り動かされるような経験のことをいいます。人はそういう時、当然ながら本能的に不安を覚えます。しかし、それを乗り越えるとパウロのように一皮むけた新しい自分に変えられるのです。

私たちは不安よりも安心を感じていたいものです。でも不安というのは、新しい刺激を受けたからこそ、人間の大切な心理反応です。こどもたちが幼稚園で過ごしている間、不安そうな表情をしている時があったら、もしかすると小さな心の中で、そのような「目から鱗」の経験をしていたのかもしれない。これもまた成長にとってとても大切なプロセスです。

パウロは旅を続けていたからこそ、このような体験をしました。旅には出会いがあり、発見があり、目から鱗の経験をもたらします。私たち大人もまた、一つの場所に留まることなく、心の旅を続けて行きたいものです。

チャプレン 下澤 昌